

科目名	管理会計論 Managerial Accounting		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・3 限	春・月・5 限	-	-
担当教員名	金 紅花	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施します） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>管理会計は、企業の実務と密接な関係を持ち、経営管理に役立つ会計情報を提供することを目的としている。伝統的な管理会計の役割は、戦略を所与の存在として、戦略を実行するために、意思決定を行い、従業員の行動を統制し、業績を適切に評価できるように、経営管理者を支援することにあった。しかし、近年戦略の重要性が高まることによって、戦略を所与の存在とせず、戦略の学習と戦略のマネジメントに貢献する戦略的管理会計が注目されている。</p> <p>そこで、本講義はマネジメント・コントロール（原価管理会計と利益管理会計領域）のための管理会計と経営意思決定のための管理会計という伝統的な管理会計の枠組みとともに、新たな戦略的管理会計という視点を意識して管理会計の各論点を論じていく。</p> <p><到達目標></p> <p>本講義は管理会計の基礎知識の体系的理解とその基礎的な応用能力を獲得することと戦略を実践する上でのマネジメント・コントロールの特性を理解し、企業における管理会計情報の活用手法を身に着けることを目標とする。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>本講義では、計3回のグループ発表と討議を通じて、実際の事例を（もしくは学生自身の関わる事例）もちいて、企業における管理会計手法の適用状況について考察と分析を行う。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>本講義ではアカウンティングスクールの教授をゲストスピーカーとして招聘する。</p> <p><講義計画></p> <p>1 回目: イントロダクションおよび管理会計の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点: 経営者のための管理会計、マネジメント・コントロールの概念 <p>2 回目: 原価計算による製品原価の算定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点: 原価と原価計算における概念と分類、製品原価算定の手続き <p>3 回目: 標準原価計算と活動基準原価計算(ABC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点: 標準原価計算による原価管理と限界、ABCの基礎概念、ABCの意義と目的 <p>4 回目: 原価企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点: 原価企画の目的と特徴、原価企画・原価改善・原価維持の体系 <p>5 回目: 事例考察 1: 企業におけるコスト・マネジメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点: グループ発表・討議（第1回） <p>6 回目: 直接原価計算と利益管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点: 直接原価計算の計算構造と意義、CVP分析、直接原価計算情報の活用 <p>7 回目: 予算管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点: 利益計画と企業予算、予算管理の意義、予算編成の手続き、予算統制の方法とその限界 				

8 回目:ミニ・プロフィット・センター会計

- ・要点:京セラアメーバ経営のフレームワークと事例解説

9 回目:事例考察 2:アメーバ経営の導入事例について

- ・要点:グループ発表・討議 (第2回)

10 回目:意思決定のための会計

- ・要点:意思決定会計の意義と区分、意思決定のための原価、業務的意思決定・戦略意思決定の事例

11 回目:ゲストスピーカーによる講義

- ・要点:テーマについて後日公開

12 回目:バランスト・スコアカード(BSC)と戦略マップ(1)

- ・要点:BSC 体系と意義、BSC 役割の変遷、戦略マップの構造と意義、日本の BSC 経営の現状と課題

13 回目:バランスト・スコアカード(BSC)と戦略マップ(2)

- ・要点:バランスト・スコアカード (BSC) と戦略マップの作成

14 回目:事例考察 3:バランスト・スコアカード(BSC)と戦略マップの導入事例について

- ・要点:グループ発表・討議 (第3回)

15 回目:統合報告書と管理会計

- ・要点:統合報告書と管理会計における情報の開示・利用について考察。

<講義の進め方>

各回のテーマに関する基本概念について紹介しながら解説するとともに、ホームワークとグループ発表を実施する。なお、各自興味を持っているテーマについて2回発表を行う。

<事前事後学修内容>

事前に毎回の配布資料の精読とホームワークとグループワークの参加を必須とする。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定され、グループ発表の準備については学生主導で時間配分を行う。

<教科書及び教材>

各回の講義のエッセンスが広範な内容となるため、毎回講義資料を配付する。

<参考書>

「管理会計・入門」浅田・頼・鈴木・中川 (2017) 、有斐閣アルマ

「管理会計」櫻井通晴 (2019)、同文館出版

「管理会計レクチャー〔基礎編〕」門田安弘 (2008)、税務経理協会

「管理会計レクチャー〔上級編〕」門田安弘 (2008)、税務経理協会

「業績管理会計 (体系現代会計学)」谷 武幸・小林啓孝・小倉 昇 (編) (2010)、中央経済社出版

「戦略管理会計 (体系現代会計学)」浅田孝幸・伊藤嘉博 (編) (2011)、中央経済社出版

「戦略評価の経営学 - 戦略の実行を支える業績評価と会計システム - 」ロバート・サイモンズ (2003)、ダイヤモンド社

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しない。

- ・講義において受講者に発言を求める。さらに、レポートで理解度を確認する。
- ・評点 (100 点) = レポート (30 点) + ホームワーク (20 点) + グループ発表での貢献度 (50 点)

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

Teams 等にてフィードバックを行う。
<履修条件> 会計学基礎が乏しい方は、「財務会計論」科目を履修した後、本科目を履修した方が望ましい。
<ディプロマポリシーとの関連> 基礎的な会計知識の学修に該当
<録画映像の視聴> 可
<オフィスアワー> 月・4限（学内 e-mail にてアポイントを取ること）
<その他> 講義計画は、状況により変更することがある。